

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|---|-------------|----------------|--------------|
| 人間関係とコミュニケーション Human Relations and Communication | | 1年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | (介護福祉士養成課程 必修) | 特になし |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 岩田 健 | 福祉棟2階 | 授業中にお知らせします | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 「人間関係とコミュニケーション」では、介護実践のために必要となる人間の理解や人間関係形成の意義・概要について学習する。また、自分を理解すること、他者を理解することの重要性を理解し、他者とのコミュニケーションに必要な基礎的能力を習得する。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①人間関係の形成における自己覚知・他者理解の意味と必要性について説明できるようにする。 ②コミュニケーションの種類について説明できるようにする。 ③対面コミュニケーションのパターンについて説明でき、留意点を列挙できるようにする。 ④傾聴、受容、共感の重要性とその要点について、説明できるようにする。 ⑤コミュニケーション技法を列挙し、その内容について説明できるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 講義科目であるが、自己理解・他者理解のために、グループ演習を多く取り入れる。また、コミュニケーション技法についても、ロールプレイやグループ演習を通し、基礎的能力を習得できるようにする。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①自己覚知の姿勢を持って、自分が考える自己の傾向と他者から見た自己との相違について考え、述べることができる。 ②円滑なコミュニケーションを図るための基礎的知識・技術を習得し、場面や相手に応じたコミュニケーションを図ることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス（授業のねらいと進め方・成績評価の方法・授業中の留意点など） 自己紹介カードの作成とコミュニケーションゲーム 【演習】 | | | |
| 第2回目 | 人間関係とコミュニケーションの意義 【講義】 | | | |
| 第3回目 | 人間関係の形成① 自己概念と自己覚知 【講義と演習】 | | | |
| 第4回目 | 人間関係の形成② 他者理解とラポールの形成 【講義と演習】 | | | |
| 第5回目 | 人間関係の形成③ 感情表現とその受け止め方 【演習】 | | | |
| 第6回目 | 人間関係の形成④ 感情表現とその受け止め方 【発表とまとめ】 〈感情表現に関するレポートを次回提出〉 | | | |

| | | |
|--|--|--|
| 第7回目 | コミュニケーションの基礎① コミュニケーションの種類、対面コミュニケーションのパターン 【講義】 | |
| 第8回目 | コミュニケーションの基礎② 人間関係と言葉づかい 【講義と演習】 | |
| 第9回目 | コミュニケーションの基礎③ プラスアルファのひと言と肯定的な表現 【講義と演習】 〈言葉づかいに関するレポートを次回提出〉 | |
| 第10回目 | コミュニケーションの基礎④ 対人距離、会話の糸口 【講義】 | |
| 第11回目 | コミュニケーション技法① 傾聴、共感、受容 【講義と演習】 | |
| 第12回目 | コミュニケーション技法② コンセンサス法 【演習】 | |
| 第13回目 | コミュニケーション技法③ コンセンサス法 【発表とまとめ】 〈コンセンサス法の振り返り用紙を次回提出〉 | |
| 第14回目 | コミュニケーション技法④ カウンセリング技法、生活場面面接 【講義】 | |
| 第15回目 | コミュニケーション技法⑤ アサーション、動作法 【講義と演習】 | |
| 事前・事後学習 | ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。 | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 10% | 以下の視点で評価する。教材を準備して授業に臨み、必要なことはノートにとり、わからないことは質問すること。また、グループ演習に積極的に参加し、他者の意見を十分に聴き自分の意見を述べ、学びを共有すること。 |
| レポート | 30% | ①感情表現、②言葉づかい、③コンセンサス法に関する振り返り用紙およびレポートを課す。S評価のレポートは、グループ演習の内容をふまえ、感想のみでなく学びと自分の考えが具体的に記述されていること。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | 40% | 穴埋め、記述、文章の正誤を判断する問題等により、知識の確認をする。 |
| 発表内容（態度含む） | 20% | 感情表現とコンセンサス法のグループ演習を行い、学習内容を発表する。発表内容（グループで話し合った内容や学びが具体的でわかりやすいこと）や発表態度等で評価する。 |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| 教科書：新・介護福祉士養成講座 「人間の理解」 中央法規出版 | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 講義・グループ演習に積極的に参加し、学びの共有を図ること。机の上に携帯電話、飲み物など教材以外のものを置くことは禁止する。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。 | | |